

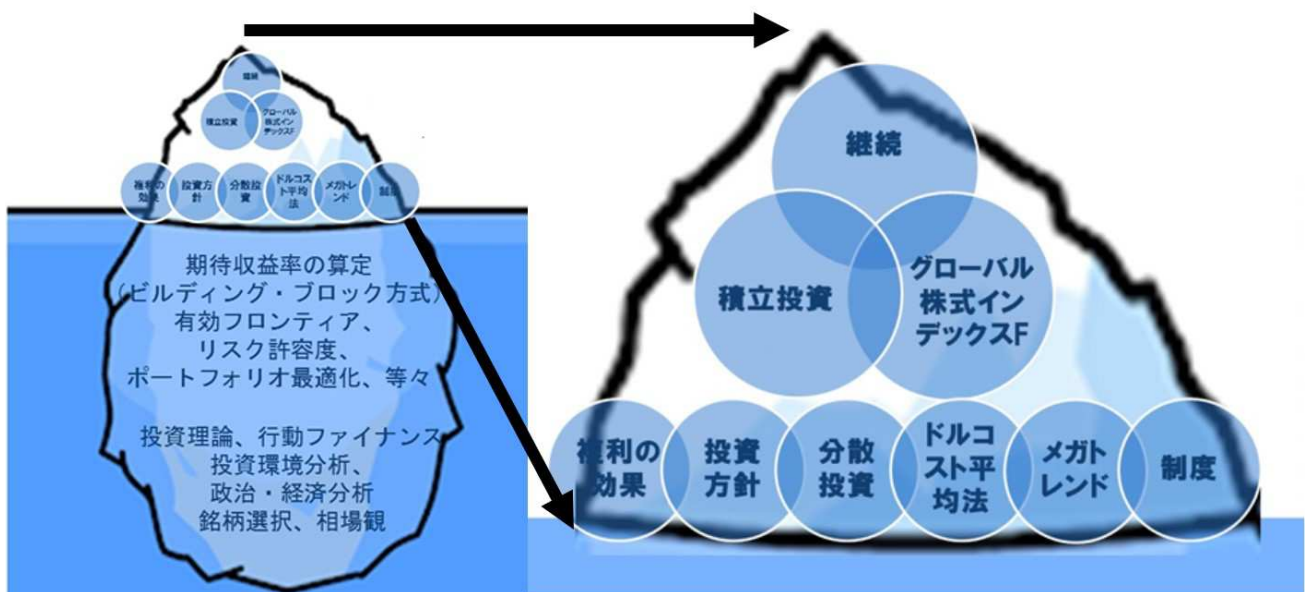


I-OWA マンスリー・セミナー講演より 投資教育家の見た投資教育のあり方

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

どうしてスマホがこんなに普及したのか？それは、みんながスマホの構造を理解したからではなくて、使い方がやさしくなったからです。これは投資にも共通して言えることで、投資を普及するためには、いかに使い方をやさしくするかが鍵だということです。

第一歩を踏み出すために、小さい頃から本当に大切なことを教え込むことが重要です。投資と資産運用は人生を通じてずっと学び続けるものです。つまり、投資はある一定期間学ぶものではなく、最後にお金を使い切って死ぬまでの間、継続して学び続けるものなのです。理論的に正しい事を究極までシンプルにした投資法を伝えることが大切です。



投資の理論は、様々な学者が打ち立てています。それらの理論に基づいて実際に機関投資家が運用にする時は、一定のプロセスがあります。しかし、これを個人がやってもあまり意味はない。大事なことは、6つあります。複雑すぎるのです。本当に大切なことは、「株式会社の仕組み、株式、債券の本質」、「複利の効果」、「投資方針(資産配分)」、「分散投資」、「ドルコスト平均法」、「メガ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

トレンド」、「制度」です。これの知識を備えた上に、グローバルな株式インデックスファンドの積立を続けていけばいいのです。

私の考えている投資教育のカリキュラムは、0歳からスタートすべきだと思っています。経済の基本は希少性。つまり我慢すること、知足が基本です。0歳の選択として、赤ちゃんが「ミルクが欲しい」、「おむつを替えて欲しい」と言っても、両方一度にはできません。どちらを先にやるのかトレードオフの関係。片方を選択すれば、あきらめた方は少し我慢をしなければならない。ここに機会コストの問題が発生してきます。小学校の低学年までは、「お金って何?」、「お金の歴史」、「お金で世界がつながる」、「働く・仕事ということ」などを学びます。ハッピーマネー4分法の「つかう・ためる・ゆずる」まではわかると思いますが、「ふやす」は少し難しいので、小学生の低学年までは、銭以外の知識を増やす、友達を増やす、笑顔を増やすといったことになるでしょう。上級生になってきたら、ふやすという部分に「投資」を少しずつ入れていけばいいと思います。

中学生以上になったら、経済・金融の初歩を体系的に勉強すると同時に、起業家について学び、世の中とのつながりを勉強します。同時に、中学、高校生にはジュニアNISAを使って投資をやらせるのも良いと思います。

ジュニアNISAを使う点で注意点が4つあります。

それらは

- ① 子ども自身が銘柄を選択する
- ② 投資先企業の世の中の役割をよく理解させること。
- ③ 少額でもいいので子どもにもお金を出させる。
- ④ 株価に注意が行き過ぎないようにする。

です。

高校になったら、基礎的なことを学び、高校を卒業したら、先ほどの基礎知識を備えた上で積立投資を始める。つまり18歳ぐらいになったら退職後に向けて自分の資産形成を始めていく。高校から始めると資産形成もずいぶん楽です。収入が入ってきたら、友だちとの飲み会等を月に一度、我慢して積立投資する。この我慢することがトレードオフの関係です。今の我慢と将来のメリット。今か未来だったら未来の方が大事だということをちゃんと教えてあげなくてはならない。それが本当は投資だということです。

ミドルになり、興味があったらオプションで個別投資をやるのもいいでしょう。更にシニアになったら50歳位から退職後のプランニングが必要です。退職した後は脳トレ投資、寄付のような超マネー投資ということも考えられるでしょう。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

この後講演では、投資がなかなか普及しない問題点を解説。また、5月に訪米した先の一つであり、投資教育と投資保護活動を行っている、Investor Protection Trust の紹介と、投資で成功するための5つの秘訣について、そして、同社の教材 DVD の動画(前半)を紹介くださいました。来月 DVD の後半を紹介して下さるとのこと楽しみです。